

目録

目録法(cataloging)

「目録の書誌的記録を作成するために行われる諸々の作業」

The ALA glossary of library and information science, Chicago, American Library Association, 1983, p37

目録の目的

カッター(Charles A. Cutter)

特定の

著者

タイトル

主題

で図書を探せること

図書館が所蔵する

特定著者の著作

特定主題の著作

特定種類の著作

が分かること

版次

文献、論題の性格がわかり

これが資料の識別に役立つこと

目録法

記述目録法(descriptive cataloging)

文献・資料の書誌データを記録し、文献・資料の所蔵・所在を確認するための目録

主題目録法(subject cataloging)

主題から、文献・資料の所在を探索するための目録

文献・資料の主題分析が必要

目録の種類

書名目録(タイトル目録)

著者目録

件名目録

分類目録

辞書体目録

書誌データベース

目録の用途

利用者用目録(public catalog)

事務用目録(official catalog)

インプロセス・ファイル(in-process file)

受け入れ・発注中の文献・資料の作業段階を把握する。

目録の種類 対象別

所蔵目録

特定の図書館が所蔵する資料・文献の目録

総合目録

複数の図書館がそれぞれの蔵書を統合して編集する目録
排列キーの調整、書誌データの整合性の調整などが必要

書誌目録

特定主題に関する資料・文献の目録

目録の種類 形態別

冊子体目録

シーフ目録

カード目録

マイクロ目録

マイクロ・フィルム

マイクロ・フィッシュ

MARC (機械可読目録)

基本記入方式と等価標目方式

基本記入方式(main entry system)

いくつかの標目のうち、特定の標目を基本とし、他は副出記入として基本記入への誘導する役割を持つ。

基本記入には、すべての情報を網羅し、副出記入は簡略化しタイプ打ちの省力化をはかる。

英米目録規則

等価標目方式(alternative heading system)

標目すべてが対等に扱われる。

最近の日本目録規則

参照

目録法と書誌情報、丸山昭二郎編、雄山閣、1993、講座図書館の理論と実際-3-、p.29

目録記入の記録媒体

冊子体目録(book catalog)

特徴

利点

一覧性：一覧・通覧性に優れている。

可搬性：持ち運び・移動が可能である。

欠点

即応性：最新の文献・資料に直ちに対応出来ない。

累積性：過去の資料の遡及的累積には多くの困難と無駄

利用例

閉じた所蔵目録

増加することのない閉じた所蔵目録

例

「 記念文庫目録 」

特定分野書誌

特定分野に限定した主題書誌

新着資料目録

特定時期に収集した資料

総合目録

複数の組織が所蔵する資料の総合目録

カード目録(card catalog)

1791年、フレンチ・コードによる利用が最初

フレンチ・コードとは、フランスの王立図書館や各地の修道院にあった蔵書を革命政府が没収し、一元的に整理するために制定した目録規則である。

標準カードサイズ(7.5cm×12.5cm)

1886年、デューイによる提唱

アメリカ議会図書館の印刷カードサービス

1901年

普及

特徴

利点

個々の記入への加筆・訂正が容易

加除性：加除が容易

通覧性

維持経費が少ない

印刷カードサービスとの連携

目録の標準化・質的向上

欠点

スペース

複雑性：排列作業が複雑

移動は困難

目録の歴史

バビロン第一王朝

紀元前 2000 年初頭

メソポタミア南部の古代都市ニップール(Nippur、現在名ヌファル)で発見

シュメール文学に関する楔形文字による目録

粘土板文書

アッシリアのアシュルバニパル王(Ashurbanipal) [紀元前 625 年没]

王宮文庫の目録

粘土板の番号・行数・所在場所等

「大目録(ピケナス)」

古代世界最大規模のアレキサンドリア図書館

詩人カリマコスが完成

ギリシャ語文献を網羅、文学史的に整理

著者の来歴・本文の行数・分類など

著者名、年代順に排列

修道院図書館の書架目録

主題別書架排列

検索機能

「英米目録規則」 1908 年

デューイ(Melvil Dewey)提唱

イギリス・アメリカ2カ国共通の目録規則

プロイセン目録規則

ドイツを中心にヨーロッパに普及

英米目録規則と相違

IFLA (国際図書館協会連盟) 設立 1927年

目録規則の世界的統一

英米目録規則とプロイセン目録規則の相違点

(1) 英米目録規則にある団体著者の概念がプロイセン目録規則には無い。

(2) 特定資料タイプに依存しない目録記入全般に適用できる一般原則の必要性。

「パリ原則」 1961年10月

目録原則国際会議 (ICCP: International Conference on Cataloguing Principles)

「標目と記入語の選定と形式に関する基本原則」

アルファベット順の著者・書名目録

団体著者名標目の承認

書名記入の自然排列

各国の目録規則の制定・改訂作業の推進

ICME (International Meeting of Cataloguing Experts) 目録専門家会議 1969年 コペン

ハーゲン

ISBD の討議

ISBD (International Standard Bibliographic Description : 国際標準書誌記述)

目録記入の互換性

言語障壁を越えて目録記入の容易な理解

目録記入の機械可読化

書誌的事項の漏れない記録

書誌的事項の排列・記載順序の明確化

句読点の用い方の標準化

単行書用 ISBD 予備版 1971年

ISBD(M) 標準第1版 1974年

ISBD(S)逐次刊行物用 1974 年

英米目録規則

パニッツィ(A. Panizzi) (大英博物館) の 91 条の規則

1839 年

近代目録法の始祖

アルファベット順目録規則(Rules for the compilation of the catalog)

冊子目録編纂のための規則

ジュエット(C. C. Jewett) (スミソニアン協会館長) の 39 条の目録規則

1852 年

記述、標目、参照、排列の順の規則

カッター(C. A. Cutter)の辞書体目録規則

1876 年

初版、冊子体目録規則(Rules for printed dictionary catalogue)

第 2 版、カード目録も対象

件名記入の規定

「英国図書館協会(LA)著者書名目録規則」

1881 年

「米国図書館協会(ALA)要約著者書名目録規則」

1883 年

「英米合同目録規則 1908 年版」

1901 年 1 月から米国議会図書館は印刷カードの頒布を開始

ALA と LC との調整、LA からの統一規則作成の提案

世界初の国際目録規則"Catalog rules ; author and title entry"

「ALA 著者書名目録規則 第 2 版」

1949 年

記入と標目

「英米合同目録規則 1908 年版」・「LC 記述目録規則」と併用される。

単語の米国式綴りと英国式綴り間の調整などが行われた。

「LC 記述目録規則」

1949 年

記述

パリ原則以後の英語圏の目録規則

「英米目録規則 北米版」

Anglo-American Cataloging Rules: North American Text

1967 年

「英米目録規則 イギリス版」

Anglo-American Cataloging Rules: British Text

1967 年

なぜ 2 つの目録が生まれたか

実務上の慣行の違い

「標目の選定と形式」についての合意のみ

「英米目録規則」

Anglo-American Cataloging Rules. 2nd ed.

1978 年

2 つの目録の統合

特徴

標目と記述の分離

図書以外の資料にも適用

コンピューター処理

国際的書誌記述に対応

1988 年改訂版から、オーストラリア図書館協会が参加している。

Anglo-American cataloguing rules. - 2nd ed., 1988 revision / prepared under the direction of the Joint Steering Committee for Revision of AACR, a committee on Cataloguing, the British Library, the Canada Committee on Cataloguing, the Library Association, the Library of Congress ; edited by Michael Gorman and Paul W. Winkler. - Ottawa : Canada Library Association ;

London : Library Association Pub

. Ltd. ; Chicago : American Library Association, 1988. - xxv, 677p. ; 26cm.

プロイセン目録規則

1899 年

アルファベット順目録規則 (Instruktionen für die alphabetischen Katalog der preussischen Bibliotheken und für den preussischen Gesamtkatalog)

特徴

団体記入を認めず、書名基本記入にする。

書名記入の排列を、書名中の最初の名詞を第 1 排列語として排列する。

パリ原則以後のドイツ語圏の目録規則

「アルファベット順目録規則」

RAK:Regeln für die Alphabetischen Katalogisierung

東西ドイツの図書館界の合同改訂

1977 年

特徴

団体名の記入規則

語順による機械的排列規則

個人・団体名の標目に英語形を採用

ISBD 準拠

問題点

多くの任意規定

適用に種々の解釈

目録情報の標準化を阻害

RAK-WB:Regeln für wissenschaftliche Bibliotheken

学術図書館用

RAK-OB: Regeln für öffentliche Bibliotheken

公共図書館用

ISBD による記述の標準化後の各国の目録改訂の課題

それぞれの国の出版状況に関わる課題

文化状況に関わる課題

言語に関わる課題等

日本の目録規則

日本文庫協会

1892 年(明治 25 年)設立

日本図書館協会の前身

「和漢図書目録編纂規則」

1892 年(明治 26 年)

田中稲城(東京図書館長)の提唱

東京図書館、後の帝国図書館

日本図書館協会

1971 年(明治 41 年)

日本文庫協会の改称

「和漢図書目録編纂概則」

1910 年(明治 43 年)制定

1909 年、和田万吉らの修正提議による

「和漢書目録規則 第 1 編」

1942 年(昭和 17 年)

「日本目録規則 1942 年版」

著者主記入

和漢書・洋書 共用、ただし洋書処理には不十分

カード記載形式 - 2 段式

「日本目録規則 1952 年版」

洋書は、アメリカ議会図書館(LC)の規則による

カード記載方式 - 3 段式

「日本目録規則 1965 年版」

パリ原則に基づく改訂

和漢書・洋書 共用

排列規則、図書以外の資料に対する規則

「日本目録規則 新版・予備版」

1977 年、日本図書館協会

明治以降刊行の和書

ユニット・カード（原版カードの複製）、非基本記入

記述ユニット方式 記述独立方式

特徴

個別型目録を基本とする。従って、主題目録についても規定

記述を標目より先に規定している

標目は原則として片仮名で表記する。

排列に関しては五十音順を原則とする。

「日本目録規則 1987 年版」

1987 年、日本図書館協会

特徴

機械可読データファイル、書誌データベースに対応

「書誌階層」を導入

ISBD に準拠，記述の精粗に 3 段階

全資料媒体を対象とする

標目で、任意規定ではあるが統一書名を規定

MARC

MARC の歴史

全国書誌の目録情報を、コンピュータを利用して作成し、磁気テープの形態で配布
米国議会図書館が最初に、1966 年 10 月にサービスを開始する。

MARC(MAchine Readable Cataloging)プロジェクト

1966 年 1 月、米国議会図書館

MARC フォーマット

国際交換の可能性に対処

配布サービス

1969年3月

国立医学図書館(National Library of Medicine)、国立農業図書館(National Agricultural Library)

MARCフォーマットの標準化

米国規格協会(ANSI)規格、1971年

英国規格協会(BSI)

国際標準化機構(ISO)規格、1973年

国際交換用MARCフォーマット原案、1975年

UNIMARC、1977年

UNIMARC改訂版、1980年

MARCフォーマット

「レコード構造」

レコードラベル、ディレクトリ、データフィールド群

「タグ番号とサブフィールド識別子」

レコード内の内容を識別する

「書誌的事項」

レコード内容

CIP 出版物付記目録

COM(Computer-output microfilm)

RLG(Research Library Group)

WLN(Western Library Network 旧称:Washington Library Network)

OCLC(Online Computer Library Center 旧称:Ohio College Library Center)

書誌ユーティリティ(bibliographic utility)

「オンライン書誌データベースを維持し、関心のある利用者には誰でも、コンピュータを用いたサポートを提供できるようにしている組織。図書館が直接に、または書誌情報サービス・センターを通じて書誌レコードを入手できるように、標準インターフェースを提供する。」

「ALA 図書館情報学辞典」

OCLC、Utlas、RLIN、WLN、学術情報センターなどの総称

OCLC(Online Computer Library Center)

1967 年、大学間オンライン共同目録情報サービスセンター(Ohio College Library Center)として発足

1977 年、OCLC Inc.に名称変更

1981 年、OCLC に名称変更

当初目標

図書館運営経費の軽減

共同分担目録・情報検索・貸出管理・逐次刊行物管理・整理業務の 5 システム開発

経過

重複データの整理

典拠ファイルの導入

CJK system：中国語・日本語・韓国語の目録情報処理システム

オンライン ILL システムの拡充

書誌情報の遡及入力作業の支援

逐次刊行物管理システム

出版社への発注システムの開発

最も充実した書誌ユーティリティ

RLIN(Research Libraries Information Network)

1974 年、ハーバード大学図書館・コロンビア大学図書館・エール大学図書館・ニューヨーク公共図書館によって結成された研究図書館グループ(RLG:Research Library Group)が母体

サンフランシスコ近郊のスタンフォード大学に本部設置

当初目標

蔵書構築における協力

蔵書の共同利用

資料保存

高度な書誌的ツールの構築

経過

OPAC

UAP(Universal Availability of Publication)

-> インターネット

Dublin Core

国際図書番号(ISBN : International Standard Book Number)

図書の国際的流通・整理・検索

個々の図書に国際的に唯一の 10 桁の個別番号を付与

「どこの国の、どこの出版者の、何番の本」という番号構成

「一書名、一版次」が付番単位

国際 ISBN 機関、各国 ISBN 機関、出版者の協力

ISO(国際標準規格)、JIS(日本工業規格)

ISBN の構成

グループ記号・出版者記号・図書名記号・チェック数字

グループ記号

0,1	英語圏
2	フランス語圏
3	ドイツ語圏
4	日本語圏

国際標準逐次刊行物番号(ISSN : International Standard Serial Number)

逐次刊行物の特徴

発行点数が多い

休・廃刊

改題

合併・吸収

分離
的確な把握が困難
識別コードが必要

ユネスコの UNISIST(世界科学技術情報システム)の一部である国際逐次刊行物データシステム(ISDS : International Standard Data System)で使用される 8 桁の数字からなるコード

国際登録センター (パリ)
国内センター : 国立国会図書館

改題・吸収・分離などで異なったコードが与えられる。

8 桁の数字、8 桁目はチェック・デジット
例

ISSN1234-5678

参考資料

資料組織法 第 3 版、志保田務 他、第一法規、,1996、313p

J-BISC(Japan Biblio Disc)

Japan/MARC の内容を、CD-ROM 化
国立国会図書館・日本図書館協会によって開発
カレント版・遡及版
多様な検索、データのダウンロード

「著者基本記入方式」

1965 年版目録法

「記述ユニット・カード方式」

記述独立方式

新版予備版、1987 版、1987 年版改訂版

目録カード

目録用標準カード	125×75mm
第1垂線	15mm
第2垂線	25mm
横第1線	15mm

カード記載位置

新版予備版	2.1.4.1
NCR87年版	1.0.5.8、カード記入例
NCR87改訂版	1.0.6.8

著作

「ことば、数字、音声、映像、その他の記号によって、思想や感情などを創作的に表現したもの。作品」

『図書館用語集』、改訂版、日本図書館協会用語委員会編、日本図書館協会、1996年

図書

UNESCOの定義では、49ページ以上

記述

対象となる資料を、他の資料から同定・識別することを目的として作成する書誌的事項の集まり

記述の対象となる資料の書誌的特徴を「必要かつ十分なだけ(NCR1.0.0.1)」記録する。

書誌的事項

タイトルと責任表示に関する事項（書名、著者表示など）

版に関する事項（版の表示など）

資料（または刊行方式）の特性に関する事項（地図、逐次刊行物などに適用）

出版・頒布等に関する事項（出版地、出版者、出版年など）

形態に関する事項（ページ数、大きさなど）

シリーズに関する事項（上位のシリーズ名など）

注記に関する事項（記述を敷衍・詳述する事項など）

標準番号、入手条件に関する事項（ISBN、定価など）

記述の情報源

標題紙（ 標題紙裏など標題紙前後のページを含む）・奥付・背・表紙・扉・カバー・箱

NCR2.0.3.1 ウ

標題紙に記載されている書誌的事項と他の情報源が異なる場合

NCR2.1.1.1E

標題紙->奥付->背->表紙 （優先順位）

転記の原則

NCR1.0.6.1

字体	そのまま（常用漢字表に限定する：別法）
書体	楷書体
変体がな	平がな
ローマ字・キリル文字	そのまま
大文字・小文字	言語・文字の慣行に従う

文字の大小表現

NCR1.0.6.3

数字の記録

NCR1.0.6.4

数量（漢数字で表されたページ数など）や順序を示す数字

アラビア数字

二様以上に書き分ける必要がある数字

そのまま

誤記・誤植

NCR1.0.6.6

一對の角がっこ[]、前後にスペースを置かない
必要があれば、注記において元の形を記録する

NCR1.0.6.6

目録用の言語

ISBD 区切り記号

「日本目録規則 1987 年版改定版」

記述全体

コンマ	,	いくつかの項目を列挙する時に、項目ごとを区別する。
プラス記号	+	2以上の同種項目を連結して記録する。
角がっこ	[]	定められた情報源以外から得られた情報等を補記する場合に用いる
丸がっこ	()	書誌的事項に、説明を加えたり限定する付記に用いる。

タイトルと責任表示に関する事項

コンマ	,	別タイトル 2以上の個人や団体の列挙
角がっこ	[]	補記したタイトル 3以上の個人や団体を省略したとき
丸がっこ	()	タイトルのルビ
中点	・	著作の種類を示す複数の語の間
斜線	/	タイトルと責任表示の間
コロ	:	タイトル関連情報
セミコロ	;	並列する本タイトルの間 役割の異なる責任表示の間
等号	=	並列タイトル

版に関する事項

コンマ	,	付加的版表示の前
セミコロ	;	2番目以降の責任表示の前
斜線	/	版表示とその最初の責任表示の間

巻次・年月次に関する事項(逐次刊行物にのみ関連)

セミコロ	;	新たな一連の巻次の前
等号	=	別方式の巻次等
丸がっこ	()	逐次刊行物の巻次に続く年月次
ハイフン	-	巻次、年月次のあとに継続期間を表す

資料の特性(または刊行方式)の特性に関する事項

コロ	:	地図の縮尺率
セミコロ	;	投影法表示 分点表示

斜線	/	対になった経度と緯度の区切り
丸がっこ	()	経緯度、分点表示

出版・頒布に関する事項

角がっこ	[]	出版地(頒布地)の補記 出版地(頒布地)不明の記述 出版者(頒布者)の補記 出版者(頒布者)不明の記述 出版年(頒布年・著作権表示年・製作年・印刷年)の補記
丸がっこ	()	出版地(頒布地)への付記 発売者等の役割の付記または補記
コロソ	:	出版地(頒布地)と出版者(頒布者)との区切り 異なる役割の出版者(頒布者)との区切り
コンマ	,	出版年(頒布年)の前
ハイフン	-	2年以上にわたる出版年(頒布年) 推定年
疑問符	?	推定出版年(頒布年)

書誌階層

書誌単位の階層化

「書誌単位」

「固有のタイトルから始まる一連の書誌事項の集合」

「物理単位」

「書誌単位を分割して、形態的に独立した部分 1 点ずつについて記述する単位」

例

1 冊で完結する資料

物理単位と書誌単位が一致

複数の形態的に独立した資料群で 1 部が構成される資料

複数の物理単位と 1 つの書誌単位

複数の著者が執筆した1冊の論文集

1つの物理単位と複数の書誌単位

「岩波講座 世界歴史」全31巻の構成

巻次	部名	編名	論文名
第1巻	古代1	古代オリエント世界 地中海世界	
第2巻	古代2	地中海世界	
第3巻	古代3	地中海世界 南アジア世界の形成	
第4巻	古代4	東アジア世界の形成	
第5巻	古代5	東アジア世界の形成	
第6巻	古代6	東アジア世界の形成 内陸アジア世界の形成	
第7巻	中世1	中世ヨーロッパ世界	
第8巻	中世2	西アジア世界	
第9巻	中世3	内陸アジア世界の展開 東アジア世界の展開	
第10巻	中世4	中世ヨーロッパ世界	
第11巻	中世5	中世ヨーロッパ世界	
第12巻	中世6	東アジア世界の展開	
第13巻	中世7	内陸アジア世界の展開 南アジア世界の展開	
第14巻	近代1	近代世界の形成	
第15巻	近代2	近代世界の形成	
第16巻	近代3	近代世界の形成	
第17巻	近代4	近代世界の展開	
第18巻	近代5	近代世界の展開	
第19巻	近代6	近代世界の展開	
第20巻	近代7	近代世界の展開	
第21巻	近代8	近代世界の展開	
第22巻	近代9	帝国主義時代	
第23巻	近代10	帝国主義時代	
第24巻	現代1	第一次世界大戦	総説(斉藤孝) 1 第一次世界大戦の発生とその展開(義井博)

			<ul style="list-style-type: none"> 一 大戦の勃発とその拡大 二 戦争中の日本の外交 三 独米関係の破局 四 第一次世界大戦の総括的考察 2 第一次世界大戦と諸地域の動向 <ul style="list-style-type: none"> 一 第一次世界大戦とヨーロッパ(平瀬徹也、三宅立) 二 第一次世界大戦と東アジア(今井清一、藤田敬一) 三 第一次世界大戦と従属諸地域(板垣雄三、岡倉古志郎) 四 ウィルソン政権とアメリカの参戦(有賀貞) 3 ロシア革命 <ul style="list-style-type: none"> 一 ロシア革命研究の課題と方法(和田春樹) 二 ロシア社会の危機と二月革命(和田春樹) 三 二月革命から十月革命へ(長尾久) 四 十月革命(和田春樹) 五 ロシア革命の矛盾(和田春樹) 4 オーストリア・ハンガリー帝国の崩壊とドイツの敗戦 <ul style="list-style-type: none"> 一 オーストリア・ハンガリー帝国の崩壊(矢田俊隆) 二 ドイツの敗戦(富永幸生)
第25巻	現代2	第一次世界大戦直後	
第26巻	現代3	1920年代	
第27巻	現代4	世界恐慌	
第28巻	現代5	1930年代	
第29巻	現代6	第二次世界大戦	
第30巻	別巻	現代歴史学の課題	
第31巻	総目次 総索引		

単行レベルの記録の構成

第一次世界大戦 / 斉藤孝 [ほか] 著

東京：岩波書店, 1970

5, 494p ; 22cm. - (岩波講座世界歴史 / 荒松雄 [ほか] 編 ; 24. 現代 ; 1)

内容: 総説 / 斉藤孝. 第一次世界大戦の発生とその展開 / 荒井博. 第一次世界大戦と諸地域の動向 / 平瀬徹也 [ほか]. 第一次世界大戦とヨーロッパ / 平瀬徹也, 三宅立. 第一次世界大戦と東アジア / 今井清一, 藤田敬一. 第一次世界大戦と従属諸地域 / 板垣雄三, 岡倉古志郎. ウィルソン政権とアメリカの参戦 / 有賀貞. ロシア革命 / 和田春樹, 長尾久. ロシア革命研究の課題と方法 / 和田春樹. ロシア革命の危機と二月革命 / 和田春樹. 二月革命から十月革命へ / 長尾久. 十月革命. ロシア革命の矛盾 / 和田春樹. オーストリア - ハンガリー帝国の崩壊とドイツの敗戦 / 矢田俊隆, 富永幸生. オーストリア - ハンガリー帝国の崩壊 / 矢田俊隆. ドイツの敗戦 / 富永幸生

集合レベルの記録の構成

現代 / 斉藤孝 [ほか] 著. - 東京 : 岩波書店, 1970-1971. - 6冊 ; 22cm. - (岩波講座世界歴史 / 荒松雄 [ほか] 編 ; 24-29)

1 : 第一次世界大戦 / 斉藤孝 [ほか] 著. - 1970. - 5,494p

内容: 総説 / 斉藤孝. 第一次世界大戦の発生とその展開 / 荒井博(以下略)

構成レベルの記録の構成

第一次世界大戦の発生とその展開 / 荒井博. - (第一次世界大戦 / 斉藤孝 [ほか] 著. - 東京 : 岩波書店, 1970. - p25-62. - (現代 / 斉藤孝 [ほか] 著 ; - (岩波講座世界歴史 / 荒松雄 [ほか] 編 ; 24)))

書名

「ある著作あるいは図書に対して、その著者、編集者あるいは出版者が、その著作や図書の内容を表し、他の図書と区別するために与えた固有の名称」

書名の優位性

資料のファインディング・ツールとしての書名の優位性

1965年版までの著者基本記入方式においては、著者が最も重要な要素であった。

著者基本記入方式では、著者検索の後、書名による検索が必要となり二段階の検索が必要である。

本書名

その図書を他の図書から区別する主要な部分

別書名は、本書名に含まれる。

本文は日本語なのに外国語の書名しか表示されていない場合は、外国語の書名をとり、「本文は日本語」と注記する。

表示の書名と本分の関係から書名を選ぶ表

本文	表示の書名	どのように書名を記述するか
----	-------	---------------

日本語	日本語	日本語
日本語	日本語 / 外国語	日本語=外国語
日本語	外国語	外国語 (注記「本文は日本語」)
日本語 / 外国語	日本語	日本語 (注記「語併記」)
日本語 / 外国語	日本語 / 外国語	日本語=外国語
日本語 / 外国語	外国語	外国語 (注記「本文は日本語と語」)
外国語	日本語	日本語 (注記「本文は語」)
外国語	日本語 / 外国語	外国語 (注記「日本語の書名：」)
外国語	外国語	外国語

続編等の書名

ある図書の続編や補遺、索引などが別冊として本体とは別に刊行され、その書名が先に刊行された正編または本編の書名と異なるときは、別冊などの書名を本書名として記載し、正編または本編の書名は注記する。

例

詞八衛補遺 / 中島広足著
(注記「本編の書名：詞八衛 / 本居春庭著」)

別書名

同一の著作がもつ他の書名

古典などでは、ある作品が長い期間にわたってさまざまな場所を経て流布される間に 2 以上の名称で今日に伝わっているものがある。

あるいは、詳細に内容を伝えるために著者自身あるいは第三者が本来の書名とは別の書名を付加したものがある。

記載方法

書名, あるいは, 別書名

例

花伝書, あるいは, 風姿花伝

並列書名

本書名として選んだ書名を別言語および文字 (またはその一方) で表現した書名で、規定の情報源に表示されているもの。

NCR2.1.3.1

従来、「欧文書名」・「翻訳原書名」などと呼ばれていたもの。

日本語の本書名と同じ意味を表す別言語および別の文字（またはその一方）の書名で、その言語および文字（またはその一方）の本文があるもの。

本書名と別言語の原書名で、原文の本文はないが規定の情報源に表示されているもの。

相当する言語の本文はないが、規定の情報源において本書名と同等に表示されているもの。

記載方法

本書名 = 並列書名

例

ことばの饗宴（うたげ）= Linguistic fiesta： 寛寿雄教授還暦記念論集

書名関連事項

書名関連事項 書名先行事項 = 冠称
副書名

副書名

「本書名の後につづいて表示され、これを限定、あるいは説明している部分」

NCR 用語解説

本書名だけでは明確にならない内容を明らかにするのが副書名である。

本書名の内容を限定しているもの

例

実践統合ソフト活用読本：日立パーソナルコンピュータ B16 / 大森新平著

後藤新平：外交とヴィジョン / 北岡伸一著

アジアと私たち：若者のアジア認識 / 村井吉敬 [ほか] 編

本書名の内容を説明したもの

例

注文の多い食客：猫の衣食住ヒント集 / 古谷？梨著

あめゆきさんの歌：山田わかの数奇なる生涯 / 山崎朋子著

著者の立場、あるいは執筆の方法を述べたもの

例

89年・世界同時不況：景気循環論によるシュミレーション / 嶋中雄二, 日本経済研究センター編

著作の形式を示したもの

例

青い山脈'88：シナリオ版 / 石坂洋次郎原作；山田信夫脚本

刊行や執筆の背景を説明したもの

例

ビデオテーププログラム：新ビデオテープシステム完成記念 / 国立民俗学博物館 [編]

巻次にかわるもの

例

図書館学研究入門：意義と方法 / 長澤雅男, 戸田伸一著

図書館学研究入門：領域と展開 / 長澤雅男, 戸田伸一著

特殊なテーマを一般化するために

例

ちびくろサンボとピノキオ：差別と表現・教育の自由 / 杉尾敏明, 棚橋美代子著

ルビが打たれた書名の記載

「常識的なヨミ」とは異なるヨミとさせるために付されたり、2以上のヨミが可能な語を一つのヨミに限定するために付されるもの。

例

みっけよう (まる) (さんかく) (しかく) / こわせ・たまみ文；岡本好文
絵. - 初版. - 東京：国土社, 1987

彗星の使者 (ジークフリート)：宇宙 (ワルハラ) 蒸発 / 野田秀樹著. - 東京：新潮社, 1986

書名関連事項の記載

例

オールド・ファッション：普通の会話：東京ステーションホテルにて / 江藤淳, 蓮實重彦 [著]

例

オバハンの逆襲：ああ、気がつけば、アンタもオバタリアン。今どきの若い娘に感染するオバタリアン・ウィルス。これは、オバタリアン予備軍たちに与うる書である。 / 未広真季子著。 - [初版]。 - 大阪：たる出版, c1989。 - 237p ; 19cm。 - ISBN 4-92471-21X : ¥1000

合集

「1人の著者、あるいは複数の異なる著者によるいくつかの著作を集めたもの。」

「全集」・「選集」・「著作集」・「講座」・「体系」・「叢書」などとも言う。

「合刻書(がっこくしょ)」

過去に何らかの形で刊行された2以上の著作を一つにまとめて刊行するもの。

「合綴書(がってつしょ)」

別々に出版された2以上の著作を、後から合冊製本したもの。

例

征服者と新世界 / コルテス [ほか] [著]; 小池裕二 [ほか] 訳

...

内容:メキシコの戦争 / サアグン編 ; 小池裕二訳・注. 報告書? / コルテス [著]; 伊藤昌輝訳 ; 増田義郎解題・注. ペルーおよびクスコ地方征服に関する真実の報告 / ヘレス著 ; 増田義郎訳・注. アマゾン川の発見 / カルバハル著 ; 大貫良夫訳

総合書名がなく、各著作の書名等が並べて表示されている場合は、各著作の書名を本書名としてそれぞれの著者表示とあわせて標題紙などに表示されている順に記載する。

例

土佐日記 / [紀貫之著]; 長谷川政春校注. 蜻蛉日記 / [藤原道綱母著]; 今西祐一郎校注. 紫式部日記 / [紫式部著]; 伊藤博校注. 更級日記 / [菅原孝標女著]; 吉岡広校注

著者表示

著者表示には、対象資料の本文の内容に責任をもつ著者や、図書の成立に関与した個人・団体をその果たした役割を表す語とともに記述する。

「著者」

図書や著作、あるいは芸術作品等の知的、芸術的内容の創造に主たる責任を有するもののほかに、その成立に関与した個人・団体を含む。

直接的著者

間接的著者

著者に関する情報源

標題紙・奥付・背・表紙の優先順位の順

規定の情報源以外の個所に表示されている著者およびその果たした役割を表す語は、角がっこに、入れて補記する。

例

参考者など図書以外の情報源（カバーなど図書の本体から分離するものも含む）から得た著者は、著者表記とはせず、注記する。

例

ISBD 区切り記号

書名の後に、スペース、斜線、スペースで区切り、著者である個人または団体をその果たした役割を表す語とともに記述する。

書名 / 著者

例

情報源に表示されている

監修者

監訳者

校閲者

解説者

著作権者

会議・出版等のスポンサー

などを著者表示として記述する。

例

監修者・監訳者

その分野の有名人や第一人者の名前を宣伝材料として扱い、実質的な仕事を果たしていない場合も多くある。

新版予備版 2.2.4.1 注1

著者表示としない。

NCR1987年版改訂版 2.1.5.1 別法

記録しなくてもよい。必要があれば注記する。

版に関する事項

記録の目的

同じ書名のもと、同一著者が加筆・訂正し内容を改めており、それを識別する必要がある。あるいは、他の著者が加わっていたり、引き継いでいる場合もある。

例

広辞苑 / 新村出編. - 第3版

同一著作を異なる出版者が刊行している場合があり、著作そのものに異同のある場合もある。あるいは、編者・解説者が異なり、付録が追加されるなど図書のないように違いが生じている場合がある。

例

こころ / 夏目漱石. - (岩波文庫)

このろ / 夏目漱石. - (新潮文庫)

同一出版者からシリーズを変えたり、装丁や形態を変更して刊行される場合がある。内容に異同が生じている場合もある。

例

鏡の背面 / K. ローレンツ著

鏡の背面 / K. ローレンツ著. - 新装版

(いずれも、思索社からの出版)

貴重な書物や文書、あるいは絶版となった図書などを、写真製版や複写などで、複製刊行される場合がある。

例

復刻日本古典文学館 (ほるぷ出版)

版次と刷次

「版」表示は、著作の内容の違いを表す。

「刷」表示は、同一「版」による増刷の回数の記録である。従って、内容に違いは無い。しかし、日本の出版物では刷次にも版という語が用いられることがあり、紛らわしいので注意を要する。

NCR 2.2.1.1C では、「刷次は記録しない。」と規定している。内容が同一なのであるから記録の必要が無い。

例

空とぶ船と世界一のばか : ロシアのむかしばなし / アーサー・ランサム文 ; ユリー・シュバルヴィッツ絵 ; 神宮輝雄訳. - 第5刷改版

(増刷と改版が組み合わされた例)

著作権法

第 15 条

法人その他使用者（以下この条において「法人等」という。）の発意に基づきその法人等の業務に従事する者が職務上作成する著作物で、その法人等が自己の著作の名義の本に公表するものの著作者は、その作成の時ににおける契約、勤務規則その他に別段の定めがない限り、その法人等とする。

出版地

記録の方法は、市町村名であり、識別上必要があるときは都道府県名を付記または補記する。

市名の「市」は記録しないが、町村名については「町」「村」を記録する。

東京都特別区は「東京」とのみ記録し、東京都下の市町村はそれぞれ市町村名を記録する。

例

東京	特別区の場合
鹿島（佐賀県）	佐賀県鹿島市
鹿島町（茨城県）	茨城県鹿島町（他に、島根県・石川県にもある）
府中 [広島県]	東京都府中市と区別

出版地がその図書に表示されていない場合は、調査もしくは推定により角がっこ[]に入れて記録する。

推定も不可能な場合は、**[出版地不明]**と補記する。

出版年

記述対象の図書の属する版が最初に刊行された年が、出版年である。

（注．ただし、「新版予備版」では、「その図書に表示されている最新の出版年」を記録すると規定されており、最新の刷りの年を記録することになる。移行措置として、NCR87年版では、NCR2.4.3.1 任意規定で新版予備版方式の記録も許容されている。）

出版年の記録は、西暦紀年による。(NCR2.4.3.2A)

別法として、図書に表示されている紀年をそのまま記録することもできるが、西暦紀年
を付記または補記しなければならない。

例

安政 3 [1856]	補記
昭和 63 (1988)	元号と西暦紀年の付記

元号から西暦紀年への変更方法

課題

昭和 49 年 6 月 30 日	第 1 版第 1 刷	発行
昭和 53 年 5 月 15 日	第 1 版第 5 刷	発行
昭和 54 年 4 月 15 日	改訂版第 1 刷	発行
昭和 64 年 1 月 5 日	改訂版第 9 刷	発行

回答

東京：理想社．1979 (NCR87 版本則)

東京：理想社．1979 (9 刷 1989) (NCR87 年版任意規定)

東京：理想社．1989 (新版予備版)

図書に出版年の表示がなく、著作権表示年あるいは印刷年の表示があるときは、これを
記録する。(NCR2.4.3.1A)

出版年の表示がないときは、頒布年を記録し、これらがないときには著作権年表示を記
録する。

課題

図書館の話		
至誠堂選書 3		
昭和 41 年 5 月 30 日	第 1 刷	発行
昭和 59 年 11 月 30 日	第 4 版第 6 刷	発行

著者	森 耕一
発行者	出光 宏
発行所	東京都文京区目白台 株式会社至誠堂
検印廃止	? 1981 太平印刷社 / 凸版製本

図書に出版年の表示がなく、著作権表示年の表示もないときは、序文あるいはあとがきなどに表示された年を記録し、「序」、「あとがき」などと付記する。

例

[1990 序]
[1988 あとがき]

以上でもさらに出版年が不明なときは、本文などによっておおよその出版年を推定し、角がっこ[]に入れて記録する。

例

[1975]
[1972?]
[1970 頃]
[197-]
[19--]

1965 年版までは[出版年不明]という補記が認められていたが、新版予備版以降可能な限り記録するようになっている。

物理的に 2 冊以上になっているセットものの出版年が 2 年以上に渡るときは、刊行開始年と終了の年をハイフン"- "で結んで記録する。

例

1956-1961

刊行中のセットもの、あるいは加除資料などは開始年のみのオープンエントリーとなる。終了年が確定した時点で終了年を記録しクローズする。

例

1987-

明らかな誤植など不正確な出版年は、角がっこ[]に入れて補正したものを記録する。図

書に表示されている不正確な出版年は注記に記録する。

例

[1963]

標題紙の出版年（誤植）：1936 （注記）

ページ数

図書の量的大きさを示す。

版や出版年などの異同の判定において、同一原版が使用されているかどうか最後に印刷されているページ数から判定することが簡便である。

ページ数は、印刷されたページ付けの最終数をアラビア数字で記録し、"p"を付ける。

例

256p

ページ数がいくつかに分かれているときは、分かれている部分ごとにコンマとスペース","で区切ってそれぞれの最終ページ数を記録する。

例

22, 457, 64p

ページ数が多くに（目安としては5種類以上）分かれています、記録が煩瑣になるときは"1冊"と記録する。

ページ付けがローマ数字等、アラビア数字以外でつけられていても、原則としてアラビア数字に改めて記録する。ただし、NCR87改訂版 2.5.1.2 別法 2 により、アラビア数字に改めないで記録することも出来る。

例

, 530p

頻繁に資料の一部に追加・削除が繰り返される加除式の図書は、ページ付けがあつてその時点の一時的なものなので確定しておらず、

1冊(加除式)

と記録する。

全体が一連のページ付けとなっているものの1冊や、抜刷のような包括的な一連のページ付けの途中から始まっている場合、その開始ページと終了ページをハイフン"-"で結んで記録する。ページ付けを示す"p"は、数字の前に記録する。

例

p362-734

とする。

図版数

図書の巻頭ないしは本文中に紙質の異なった用紙などで、本文の一連のページ付けに含まれない図版がある場合、本文のページ数に続けて、コンマとスペースの区切り記号を用いて

図版 p

図版[]枚

[]記号は、枚数を数えた場合の補記の方法

等と記録する。

例

, 123, 図版 54p

345p, 図版[32]枚

注 「図版」は本文の一連のページ付けに含まれず、「挿図」は本文の一連のページ付けに含まれる。

挿図、肖像、地図等

本文の一連のページ付けに含まれている挿図が、その図書の主体であったり、価値ある重要な肖像、地図等が含まれている場合、その種類とその数量(丸がっこに入れて記録する)を必要があれば記述する。挿図・肖像・地図等いくつかの種類が同時に含まれている場合は、カンマで区切って記録する。

この挿図、肖像、地図等は「その他の形態的細目」であり、スペース、コロン、スペースに続いて記録する。

ページ数 : 挿図 (図), 肖像 (図), 地図 (図) ; 大きさ

例

123p : 挿図 (12 図), 肖像 (5 図), 地図 (8 図) ; 19cm

挿図、肖像、地図等の記録は、注記事項として取り扱うことも出来る。(NCR1987 年版改訂版 2.5.2 別法)

「その他の形態的事項」として取り扱う場合は、図版のページということでページ単位で図数を記録するが、「注記事項」として取り扱う場合は、実質的な図の数を記録する。

すなわち、3 ページに 5 図あるとすると、

挿図 (3 図)	「その他の形態的事項」
挿図 (5 図)	「注記事項」

大きさ

図書の外形の高さをセンチメートル単位（端数は切り上げ）で測定して記録する。

例

19cm

ただし、外形の高さが 10cm 以下のものは、センチメートル単位で小数点以下 1 桁までを記録する。

例

9.8cm

セットものなどで大きさに差がある場合は、最小のものと最大のものをハイフン“-”で結んで記録する。

例

19-20cm

図書の横幅が高さの半分以下である「縦長本」の場合は、縦の長さとし横の長さをそれぞれ"×"印で結んで記録する。端数は切り上げる。

例

15×6cm 縦長本

図書の横幅が高さ以上の「横長本」の場合は、縦の長さとし横の長さをそれぞれ"×"印で結んで記録する。端数は切り上げる。

例

15×25cm 横長本

図書の横幅が高さと同じ「ます形本」の場合は、縦の長さとし横の長さをそれぞれ"×"印で結んで記録する。端数は切り上げる

例

15×15cm ます形本

巻物は、巻物の高さではなく、使用されている「材紙」の高さを大きさとして記録する。
畳ものは、広げた形の縦・横の大きさを"×"で結んで記録する。

例

48×30cm 畳もの

ただし、畳ものが、折り畳んだ形で使用するようになっている場合は、折り畳んだ時の縦と横の長さを"×"印で結んで補記する。

例

48×30cm (折たたみ 24×15cm) 畳もの(折たたんで使用)

シリーズに関する事項

シリーズ

「各資料自体の固有タイトルのほかに、そのグループ全体に共通する総合タイトルがあり、相互に関連づけられている、個別の資料の集合」

同義語

叢書

「同一の编者または出版者により、同じ体裁で出版される、多数の独立した著作の全体
(新版予備版 用語解説)

「岩波文庫」, 「コバルト・シリーズ」など終期を予定せずに逐次的に刊行されるもの

「講座図書館の理論と実際」, 「家庭料理集 華」など一定の企画のもとに体系的に編集されるもの。」

逐次刊行物

「一つのタイトルのもとに、終期を予定せず、巻次・年月次を追って継続刊行される出版物」

課題

「年鑑」は、逐次刊行物であるか、否か。その理由とともに述べよ。

課題

「論集・図書館学研究の歩み」という資料は、逐次に刊行され、各号ごとに固有の書名を有する。この資料は、シリーズか逐次刊行物か。その理由とともに述べよ。

記録すべき書誌的事項・順序・情報源

本シリーズ名
並列シリーズ名
シリーズ名関連情報
シリーズに関係する著者表示
シリーズの ISSN
シリーズ番号
下位シリーズの書誌的事項

例．2以上のシリーズ名をもつ例

(現代俳句選集) ; 21) (河叢書 ; 第31篇)

本シリーズ名

並列シリーズ名

本シリーズ名の別言語および別文字(またはその一方)のシリーズ名
本シリーズ名に続けて = (スペース等号スペース) に続けて記録する。

例

(税法学 = Steuerrechtswissenschaft, ISSN0494-8262 ; 349)

別法

(税法学, ISSN0494-8262 ; 349)

並列シリーズ名: Steuerrechtswissenschaft (注記)

シリーズ名関連情報

本シリーズ名に対する補足表示、シリーズに関する版表示

例

(ホームライブラリー : 親と教師のための)

(産業界シリーズ : 第 5 版 ; No.544)

シリーズに関連する著者表示

「紀要」、「年報」といった総称的な本シリーズ名の場合は必ず記録しなければならない。

例

(人文紀要 / 三重大学人文学部文化学科編)

同一形式の本シリーズ名が他に存在したり、識別上必要と判断される場合、対象資料の情報源に表示されている著者表示を記録する。

例

(日本の原爆文学 / 「核戦争の危機を訴える文学者の声明署名者企画」)

注記とすることもできる

シリーズの企画: 「核戦争の危機を訴える文学者の声明」署名者

シリーズの ISSN

例

(図書館研究シリーズ, ISSN 0454-1960 ; 28)

シリーズ番号

「第 巻」、「号」など情報源に表示された通りに記録する。使用する数字は、原則としてアラビア数字である。

例

(スポーツ叢書 ; 第 122)

2 以上の巻冊が連続して一つの書誌単位を構成している場合は、シリーズ番号の最初の号と最後の号をハイフン "-" で結んで記録する。あるいは、列記するか、「ほか」などと記録してもよい。

下位シリーズに関する書誌的事項

下位シリーズに関する書誌的事項は、本シリーズの書誌的事項の後に、". "(ピリオット

ド、スペース)に続けて記録する。

例

(教育社新書．産業界シリーズ：第5版；544)

(スポーツ叢書；第122．スポーツ・ビギニング・シリーズ；2)

注記に関する事項

定型的注記	内容細目の「内容：」など定型化した注記
非定型的注記	任意に述べる注記

記載順序

誤記・誤植に関する注記を最初に記録する。(NCR87年版改定版 2.7.2)

例

気候変動論 / 荒川[秀俊]著
標題紙の著者表示：荒川俊秀

一般注記を記載した後に、最後に内容注記を記録する。

一般注記の中では、著作の様式および使用言語についての注記を最初に記録する。

例

本文は日本語と英語の対訳

著作の様式および使用言語以外の複数の一般注記がある場合は、

書名に関する注記
著者表示に関する注記
版に関する注記
出版に関する注記
形態に関する注記
シリーズに関する注記

の順に記録する。(NCR87年版改定版 2.0.4)

書名に関する注記事項

定型的注記

情報源によって書名の表示が異なる場合

例

書名は奥付と背による，標題紙には「 」とあり

情報源に示された書名は唯一であり、その書名が本文の言語と異なる場合

例

本文は 語

NCR87 年版改定版 2.1.3.2 別法に従って、並列タイトルを注記として記録する場合

(NCR87 年版改定版 2.1.3.2 別法 日本語のタイトルを本タイトルとし、外国語のタイトルは注記とする)

例

英語のタイトル:

NCR87 年版改定版 2.1.3.2 別法に従って、翻訳書の原書名を注記として記録する場合

例

原書名:

NCR87 年版改定版 2.1.4.2 別法に従って、タイトル関連情報を注記として記録する場合

例

サブタイトル:

別冊である続編・補遺・索引の書名が、正編または本編と異なる場合

例

本編の書名: / 著

非定型的注記

表示されている書名の大文字使用法が、その言語の慣行と異なる場合

例

表示の書名:

表示されている書名が、印刷方法・文字コードなどで再現が不可能な場合

例

書名は神代文字

著者表示に関する注記事項

定型的注記

情報源によって異なる著者の表示

例

標題紙の表示は「Jonas H. Fender, Eleanor J. Fender 著」とあり

対象図書に著者表示がなく、他の情報源から記述する場合

例

著者はカバーによる

NCR1987 年版改訂版 2.1.5.1 別法に従って、監修者・監訳者・校閲者・解説者・序文執筆者・著作権者等を著者表示として記録しない場合

例

監修：中原啓一，三次衛

NCR1987 年版改訂版 2.1.5.1D に従って、3 人以上の著者で著者表示として記録しなかった著者

例

著者：酒井一博，宮尾克，堀尾定雄，細川汀，宮野伸介，西山勝夫，上畑鉄之丞

版に関する注記事項

書誌的来歴（対象図書とその図書の他の版、または他の図書との関係）を説明する必要がある場合

翻訳書と原著書の関係

例

原著第 3 版の翻訳

初版と対象図書の版の出版者が異なる場合

例

初版：台湾畜産会 昭和 17(1942)年刊

第 1 刷と第 2 刷の間に相当の期間が経過した場合など

例

第 2 刷 1992 年

書名が改められている場合

例

「板橋雑記」(大阪 甲谷佐兵衛 明治 9(1876 年刊) の改題

著作の初出

例

昭和 34(1959 年)9 月から昭和 35(1960 年)2 月まで「朝日新聞」に連載されたもの

複製本の書誌的事項(NCR1987 年版改訂版 2.4.0.3)

例

「宇都宮市史」(下野史談会 昭和 3(1928 年刊)と「宇都宮誌」(下野史談会 大正 15(1925 年刊)の複製, 合本

もとの出版事項: 東京 : 新詩社, 明治 33(1900)-明治 41(1908)

出版に関する注記事項

2 以上の出版者があり、出版者として記録しなかった出版者(NCR1987 年版改訂版 2.4.2.1D)

例

共同刊行: 大分県指導漁協連合会

出版者と共に表示されていた発売者・頒布者などの記録が必要な場合(NCR1987 年版改訂版 2.4.2.1E 任意規定)

例

発売: コロナ社

誤記された出版年

例

標題紙の出版年(誤植):1683

注: 注記する表示は、規定の情報源の表示のみであり、カバーやラッパー等の表示は記録しない。

標目の役割

集中性

同一のものを一ヶ所に集める機能

排他性

異なるものを排除・区別する機能

例 集中性

千一夜物語

千夜一夜物語

アラビア夜話

アラビヤ夜話

アラビアン・ナイト

アラビヤン・ナイト

千一夜物語を見よ

千一夜物語を見よ

千一夜物語を見よ

千一夜物語を見よ

千一夜物語を見よ

中島梓

栗本薫

栗本薫をも見よ

中島梓をも見よ

例 排他性

National Institute of Education(India)

National Institute of Education(Uganda)

National Institute of Education(U.S.)

参照

目録法と書誌情報、丸山昭二郎編、雄山閣、1993、講座図書館の理論と実際-3-、
p.21, pp.94-96

コンピュータの検索機能により「集中性」は、必ずしも必要ではなくなった。

排他性はどうか

書誌データベースの立場からの再評価が必要 カード、冊子

著者標目

個人名

姓名の形式である人名は、「姓」と「名」の間をコンマ(,)で区切って表記する。

日本人名

本人に固有の読みを表記する。

例

村山リウ ムラヤマ, リュウ

かなで表されている名がその読みと異なるときは、その読みを表記する。

例

平塚らいてう ヒラツカ, ライチョウ

おおよそ中世までの人名で慣用される、姓と名の間の「ノ」の読みは、原則として採用しない。

例

山部赤人 ヤマベ, アカヒト
源実朝 ミナモト, サネトモ
千利休 セン, リキュウ

例外

太安麻? オオノ, ヤスマロ
紀貫之 キノ, ツラユキ

著名な、あるいは著作の多い著者については、標目の形を統一するのに、次の優先順位を用いる。

参考資料等において多く用いられている形

例

夏目金之助 ナツメ, ソウセキ(夏目漱石)
多くの著作で一致している形

同一著者が2以上の名称を用いている場合は、それぞれの名称を標目とする。

また、以下に示す場合も、それぞれの名称を標目とする。

改姓・改名した著者が、新旧両方の姓名で著作をしている場合

例

武林文字 タケバヤシ, フミコ

三遊亭円朝	サンユウテイ， エンチョウ
江戸川乱歩	エドガワ， ランポ
獅子文六	シシ， ブンロク

イ)地名と結びついた形で知られていて、姓名のように慣用されている場合
例

佐倉宗五郎	サクラ， ソウゴロウ
-------	------------

姓または名のみ的人名は、その姓または名のみを標目とし、必要事項を付記する。

ア) 姓または名しか明らかでない人名

例

梁田 (おだまき集 梁田氏著)	ハシダ
園 (園女奉納千首和歌 園女作)	ソノ

イ) 名のみで知られている人名

空海	クウカイ
----	------

姓と名から構成されていない人名は、全体を一語とした形を標目とする。

この場合、表示にはスペースを入れて理解しやすくするが、排列においてはスペースは無視する。

例

明治天皇	メイジ テンノウ
則天武后	ソクテン ブコウ
藤原道綱母	フジワラ ミチツナ ノ ハハ
清少納言	セイ ショウナゴン
フランキー堺	フランキー サカイ
アイ・ジョージ	アイ ジョージ
ドクトル・チエコ	ドクトル チエコ
マダム・マサコ	マダム マサコ

外国人名

外国人名は、NCR23.2.1.4A から D の規定による。

さらに、次の各項による。

西洋人名のカタカナ表記

名がイニシャル形で表記されているときは、そのままローマ字で表記する。

(注・書名標目では、イニシャルのアルファベットは音読して表記する。)

例

マルチノ, R. L.

ロレンス, D. H.

前置語をともなう姓、複合姓、2語以上からなる姓の各語間には中点"."を入れる。

例

ド・ゴール, シャルル

マイヤー・フェルスター, ウィルヘルム

長音、よう長音?は、長音符"ー"で表す。

姓と名の形になっていない人名は一語で表す。

例

レオナルド ダ ヴィンチ

筆名などで知られていて、それが姓と名として慣用されている場合は、筆名を用いる。

例

O. ヘンリー

ヘンリー, O.

姓または名のみ的人名は、姓または名のみを標目とし、必要事項を付記する。

例

ピウス(2世)

フリードリヒ(2世、プロイセン国王)

古代ギリシャ人名は、ギリシャ語形を標目とする。

例

ホメロス

(注・ホーマー[英語形] ホメルス[フランス語形])

プラトン

(注・プラトーとはしない)

前置語の扱いは、その著者の国語の慣習に従う。

例

ゲーテ, ヨハン ヴォルフガング フォン
ド・ゴール, シャルル
フォン・ノイマン, ジョルジュ
ラ・フォンテーヌ, ジャン ド
チュ・ボス, シャルル
ヴァン・ヴォクト, アルフレッド エルトン

複合姓は、著者が常用している形か、確立している慣用形を標目とする。

例

マイヤー・フェルスター, ウィルヘルム
オルテガ・イ・ガゼット, ホセ
ロイド・ジョージ, デーヴィッド

西洋の貴族で、その称号で一般化している場合は、その称号を標目とする。

例

サド侯爵(Narquis de Sade) サド コウシャク

同一人物が図書によって表記が異なる場合は、統一する。

例

ゲーテ
ゴエテ
ギューテ
ギエーテ
ギョート
・・・
など 35 通りも存在する。

中国人名・朝鮮人名

漢字のみで表示される中国人名・朝鮮人名は、漢字の日本語読みで表記する。

例

毛沢東	モウ, タクトウ
葉紹きん	ショウ, ショウキン
沈 括	シン, カツ

漢字に母国語読みが併記されている中国人名・朝鮮人名は、その漢字の母国語読みで表記する。また、その漢字の日本語読みからの参照を作成することが望ましい。

例

イー・オリョン（キ?御寧）

イー，オリョン

マーシンハウ（馬欣華）

マー，シンハウ

東洋人名

それぞれの国の慣習に従った形を、標目とする。

なぜ「配列」でなく「排列」なのか

「広辞苑」では、同義

「漢和辞典」では、

「配」:「くばる」を原義とし、「並び連ねること」としている。

「排」:「おしのける」という意味が強く、「順序よく並べる」としている。

排列規則

濁音・半濁音は、清音として排列する。

よう音・促音は、直音として排列する。

外来語の表記に用いられる小字は直音として排列する。

かな表記に用いられる長音符（ー）は、排列上無視する。

タイトル中の句読点およびそれに類する記号は、排列上無視する。

洋書目録

「英米目録規則第2版」

(Anglo-American Cataloguing Rules, 2nd ed.: AACR2)

記述

記述される要素（書誌的事項：エリア）

タイトルと責任表示

版

資料の特性（地図、楽譜、逐次刊行物）

出版、頒布など

形態（対照事項）

シリーズ

注記

標準番号と入手条件

記述の情報源

AACR2の記述の情報源

エリア	規定の情報源
タイトルと責任表示	タイトルページ
版	タイトルページ、タイトルページの裏、表紙など、奥付
出版、頒布など	タイトルページ、タイトルページの裏、表紙など、奥付
形態	当該出版物全体
シリーズ	当該出版物全体
注記	あらゆる情報源
標準番号と入手条件	あらゆる情報源

区切り記号法

ISBD(International Standard Bibliographic Description)国際標準書誌記述

記録の方法

(1)転記の原則

資料に表示されているとおりに転記する。

例外

大文字、句読点の使用法は、当該言語の慣行に従う。

19世紀の図書で"u"のかわりに"v"、"j"のかわりに"i"を使用しているときは、これを無視して普通の綴りにする。

ドイツ語の母音上につけられた"e"はウムラウトに直す。

ドイツ語の"ひげ文字"は普通の字体とする。参考のための対照表と実例を掲げる。

記録の手段(タイプライター、印刷機、端末など)によって再現できない文字は、代替文字とする。

例

ローマ字しか使用出来ない場合は、任意にキリル文字等の文字をローマ字化してもよい。

略語

例

et al.	その他
S.l.	出版地不明
s.n.	出版者不明

誤記・誤植の補正・補記

再現不能の記号等

再現不能の記号等は、角がっこ[]に入れて説明的な語句に置き換えて、必要なら注記で説明を加える。

記述の精粗

第1水準(必須)

例

Kingsley, Charles
Madam How & Lady Why.--Dent,[1926]
229p.
"List of the works of Charles Kingsley":p.x.

第2水準(標準)

例

Kingsley, Charles.
Madam How & Lady Why : lessons in earth lore for children / by Charles Kingsley.--London : Dent, [1926]

xix,229p. : ill. ; 18cm. -- (Everyman's library ; no.777. For young people)
"List of the works of Charles Kingsley" : p.x.

第3水準(詳細)

例

Kingsley, Charles.

Madam How & Lady Why : lessons in earth lore for children / by Charles
Kingsley.--London : Dent ; New York : Dutton, [1926]

xix,229p. : ill. ; 18cm.--(Everyman's library ; no.777. For young people)
"List of the works of Charles Kingsley" : p.x.

書名

個人名

構成

Christian name(first name) + middle name + surname(last name, family
name)

Christian name:本人が洗礼を受けた時の洗礼名

middle name:父・祖父、先輩などの Christian name,、結婚前の女性の姓など

標目とする場合

姓が一番前にくるように、転置する。

例 Bach,Johann Sebastian

Cater,Jimmy

注．姓が最初に来るのは、日本人とハンガリー人だけである。姓が前にあり転置しない
場合でも、姓と名の間は、カンマで区切る。

例

Ohtsuka, Toshio

Molnar, Ferenc

メタデータ(Metadata)

「情報についての情報」

「データに関する構造化されたデータ(Structured Data about Data)」

例

索引
抄録
書評
標題紙
奥付
目録
件名標目
分類記号

メタ(meta)

Dublin Core

Dublin Core Metadata Initiative が制定した、メタデータを記述するための標準仕様である。

<http://purl.org/dc/>

最新情報は、

http://purl.oclc.org/metadata/dublin_core

1995年3月、米国オハイオ州ダブリン(Dublin)において"OCLC/NCSA Metadata Workshop"が開催され、ここでの討議結果が"Dublin Core metadata"と呼ばれるようになった。

<http://purl.org/dc/about/workshop.htm>

メタデータにより、インターネット上での情報資源の効率的発見を容易にする。

Dublin Core Metadata Element Set(DCMES) Version 1.1

15 要素

- | | |
|---------------|------------|
| 1.Title | タイトル |
| 2.Creator | 作成者 |
| 3.Subject | 主題およびキーワード |
| 4.Description | 内容記述 |
| 5.Publisher | 公開者(出版者) |
| 6.Contributor | 寄与者 |
| 7.Date | 日付 |

8.Type	資源タイプ
9.Format	形式
10.Identifier	資源識別子
11.Source	情報源（出処）
12.Language	言語
13.Relation	関係
14.Civerage	対象範囲（空間的・時間的）
15.Rights	権利管理

標準化

インターネット	RFC 2413
HTML による表現	RFC 2731
米国	NISO Z39.85
ヨーロッパ	CEN/ISSS

DCMI, Dublin Core Metadata Element Set, Version 1.1 : Reference Description, 1999, DCMI Recommendation

<http://dublincore.org/documents/dces/>

HTML に Dublin Core を埋め込む

例

```
<meta name="DC.Title" content="Dulin Core とは">
<meta name="DC.Creator" content="大塚敏夫">
<meta name="DC.Subject" content="Dublin Core">
<meta name="DC.Publisher" content="大塚敏夫">
<meta name="DC.Date" content="2002.4.10">
<meta name="DC.Language" content="ja">
```

参考文献

- 日本図書館協会編、「図書館ハンドブック」、第5版、日本図書館協会、1990、619p
 柴田正美編、「和書目録法入門」、日本図書館協会、1995、267p、(図書館員選書-8-)
 丸山昭二郎編、「洋書目録法入門 - つくり方編」、日本図書館協会、1986、280p、(図書館員選書-6-)
 上田修一、「書誌ユーティリティ - 新たな情報センターの誕生」、日本図書館協会、1991、

223p、(図書館員選書-18-)